Red Hat AMQ 7.7

AMQ ブローカーでの JON の使用

AMQ Broker 7.7 向け

Last Updated: 2023-02-03

Red Hat AMQ 7.7 AMQ ブローカーでの JON の使用

AMQ Broker 7.7 向け

Enter your first name here. Enter your surname here.
Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.
Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2023 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Using_JON_with_AMQ_Broker.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at
http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/
. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、JBoss Operations Network (JON) 用の AMQ Broker プラグインをインストールする方法と、JON インターフェイスを使用してリソースを検出、インポート、および表示する方法について説明します。

目次

第1章 概要 3
1.1. 主な特長 3
1.2. サポート対象の設定 3

第2章 インストール 4
2.1. 前提条件 4
2.2. AMQ ブローカープラグインのダウンロードとインストール 4
2.3. JON サーバーでプラグインを更新する 5

第3章 設定 6
3.1. 認証の設定 6
3.2. インベントリーへの入力 6

第4章 管理 7
4.1. ブローカー情報の閲覧 7
4.2. ブローカーの管理 7

付録A サブスクリプションの使用 8
A.1. アカウントへのアクセス 8
A.2. サブスクリプションのアクティベート 8
A.3. リリースファイルのダウンロード 8
A.4. パッケージ用のシステムの登録 8

第1章 概要

JBoss Operations Network (JON) は、エンタープライズ向けの Java ベースの管理および管理プラットフォームであり、JBoss ミドルウェアアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、およびモニターに使用できます。JON は RHQ に基づいています。JON プラットフォームを使用して AMQ ブローカーを管理する場合、システムは次の 3 つのコンポーネントで設定されます。

- JON サーバー
- JON エージェント
- プラグインパック

AMQ ブローカープラグインは、JON エージェントが JBoss 環境で実行されているメッセージブローカーに関する情報を収集できるようにするコネクターです。

1.1. 主な特長

JON 用の AMQ ブローカープラグインを使用すると、次のことができます。

- AMQ ブローカーのインベントリーを見つけて維持します。
- AMQ Broker 設定を保存、管理、および更新します。
- 設定の変更を検出し、それらをパフォーマンス履歴と関連付けて、ロールバックします。
- 管理対象リソースおよびリソースグループの操作の実行を自動化し、スケジュールを設定します。

1.2. サポート対象の設定

AMQ ブローカーと JON サーバーの両方でサポートされている設定は、それらを一緒に使用している場合に適用されます。システムが、次のナレッジベース記事に記載されている設定と一致していることを確認してください。

- AMQ 7 でサポートされる設定
- JON がサポートする設定とコンポーネント

第2章 インストール

この章では、AMQ ブローカープラグインをインストールするための前提条件と、プラグインを入手してインストールするプロセスについて説明します。

2.1. 前提条件

AMQ ブローカープラグインをインストールする前に、次のコンポーネントをインストールして設定し、実行する必要があります。

- JBoss ON サーバー
- AMQ Broker
- JON エージェント

関連情報

- AMQ Broker の使用
- AMQ Broker の設定
- AMQ Broker の管理
- **JON 3.3 インストールガイド**
- **JON サーバーとエージェントの設定**

2.2. AMQ ブローカープラグインのダウンロードとインストール

JON はプラグインを使用して、AMQ や EAP などの特定の JBoss リソースやその他のアプリケーションを処理します。JON リソースプラグインは、JON サーバーおよび JON エージェントとは別に配布されるプラグインパックで配布されます。プラグインパックをダウンロードするには、別のサブスクリプションが必要な場合もあります。

JON サーバーにプラグインパックをインストールすると、そのコンテンツは JON エージェントによってダウンロード可能になります。その結果、JBoss リソースを検出し、インベントリーにインポートして管理することができます。

プラグインパックをダウンロードしてインストールするには、次の手順を実行します。

1. Red Hat カスタマーポータルにログインし、ソフトウェアダウンロードページに移動します。
2. Product ドロップダウンメニューから AMQ の JBoss ON を選択します。ソフトウェアダウンロードページがリロードされ、利用可能なリリースが表示されます。
3. **Download** を選択します。zip アーカイブファイルを開くか保存するかを尋ねるダイアログが表示されます。
4. zip アーカイブを保存し、ファイルを一時ディレクトリーに抽出します。次に例を示します。

   ```
   [smith@server rhq-agent]$ unzip jon-plugin-pack-3.3.zip -d /tmp
   ```

   これにより、**jon-plugin-pack-3.3** という名前のサブディレクトリーが作成されます。

5. 抽出したプラグイン JAR ファイルを **jon-plugin-pack-plugin_3.3**/ ディレクトリーから JBoss ON サーバープラグインディレクトリーにコピーします。以下に例を示します。

```
[root@server rhq-agent]# cp /tmp/jon-plugin-pack-plugin_3.3/*.jar /opt/jon/jon-server-3.3.GA/plugins
```

2.3. JON サーバーでプラグインを更新する

スタンドアロンプラットフォームでは、次のように、サーバーを再起動するか JON Web インターフェイスを使用して、JBoss ON サーバーにプラグインを更新するように促します。

1. **Administration** > **Configuration** > **Agent Plugins** をクリックします。
2. 左下隅にある **Scan For Updates** をクリックします。
3. エージェントプラグインのリストで Red Hat JBoss AMQ 7 を見つけ、Last Updated タイムスタンプが最新であることを確認します。

管理対象プラットフォームでは、**plugins** コマンドを使用してエージェントにプラグインを手動でリロードするように求めることができます。

```
[jsmith@server ~]$ agentRoot/rhq-agent/bin/rhq-agent.sh > plugins update
```

あるいは、エージェントが JON インベントリーにインポートされている場合、エージェントまたはエージェントのグループの更新プラグイン操作をスケジュールすることで、JON GUI でこれを行うことができます。これを行うには、インベントリーでエージェントリソースエントリーを選択し、**Operations** タブを開き、プラグインの更新操作をスケジュールします。

関連情報

JON 3.3 インストールガイド

第3章 設定

3.1. 認証の設定

AMQ ブローカーには、MBean の属性とメソッドへのアクセスを制限するために使用されるロールベースのアクセス制御 (RBAC) があります。これを設定する方法は、AMQ ブローカー の設定を参照してください。

ブローカーが RBAC を使用するように設定されている場合、プラグインがブローカーに対して認証できるように、JON プラグインを正しいユーザー名とパスワードで設定する必要があります。認証されると、**BROKER_INSTANCE_DIR/etc/management.xml** 設定ファイルに基づいて、MBean へのすべてのアクセスが制限されます。

JON プラグインのデフォルトのユーザーは admin で、デフォルトのパスワードは activemq です。別のユーザー/パスワードを使用してブローカーに接続するようにプラグインを設定できます。JON プラグインが開始されると、**BROKER_INSTANCE_DIR/etc/org.jboss.rh-messaging.amq.jon.cfg** にある設定ファイルから JMX クレデンシャルがロードされます。

この設定ファイルは次のようになります。

```
principal = username
credentials = password
connectorAddress = service:jmx:rmi:///jndi/rmi://localhost:11099/jmxrmi
```

この設定ファイルには、プラグインがブローカーへの接続に使用する JMX アドレスである **connectorAddress** プロパティーも含まれています。

3.2. インベントリーへの入力

インベントリー には、管理可能なすべてのリソースとグループが表示されます。AMQ Broker リソースを設定するには、次の手順を実行します。

1. 左側のナビゲーションペインで **Resources** > **Discovery Queue** をクリックします。少なくとも 1 つのリソース (AMQ Broker インスタンス) が 検出キューウィンドウに表示されます。

2. リソース名 列の下向き矢印をクリックして、ブローカーリソースエントリーをデプロイメントします。AMQ 7 サーバーと JMX サーバーを含む、少なくとも 2 つのサーバーのサブエントリーが表示されます。AMQ 7 サーバーは、インベントリーに入力する必要があるエンティティーです。

3. リソース名列で、AMQ 7 サーバーサブエントリーの横にあるチェックボックスをクリックします。ウィンドウの左下にあるインポートボタンと無視ボタンが有効になっていることに注意してください。**Import** をクリックします。

4. 質問ダイアログが開き、プラットフォームの子を検出するかどうか尋ねられます。**Yes** をクリックします。リソースが正常にインポートされたことを示す確認メッセージが表示されます。

5. 左側のナビゲーションペインで **Resources** > **Platform** をクリックして、インポートが成功したことを確認します。AMQ サーバーや JON サーバーなど、複数のエントリーがプラットフォームウィンドウで実行されているはずです。

第4章 管理

4.1. ブローカー情報の閲覧

AMQ 7 サーバーに関する詳細をインベントリーに入力したので、AMQ Broker インスタンスのほとんどの側面に関する情報を参照できます。AMQ 7 サーバーの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. **Resources** > **Servers - Top Level Imports**をクリックして、AMQ 7 サーバーを Servers - Top Level Imports ウィンドウに表示します。

2. AMQ 7 サーバーエントリーをダブルクリックします。左側のナビゲーションペインには、AMQ サーバーと、ドリルダウンしてメッセージブローカー、アクセプター、アドレスなどに関する詳細データを表示できる領域が表示されます。

3. 階層をドリルダウンする各レベルで、選択した AMQ サーバーに固有の詳細情報がメインウィンドウに表示されます。さらに、メインウィンドウには、概要、インベントリー、アラート、監視、およびイベントなどの一連のタブが含まれており、左側で選択したエンティティーのさまざまな側面を表示するために使用できます。

4.2. ブローカーの管理

JON を使用して、無数のモニタリング、デプロイメント、および管理操作を実行できます。JON が提供するすべての利点を確実に活用するため **に、JBoss Operations Network を使用してリソースをモニタリング、デプロイ、および管理する** というタイトルの JON ガイドを参照することを強くお勧めします。

関連情報

リソースの監視、デプロイ、および管理のための JBoss Operations Network の使用

付録A サブスクリプションの使用

AMQ は、ソフトウェアサブスクリプションから提供されます。サブスクリプションを管理するには、Red Hat カスタマーポータルでアカウントにアクセスします。

A.1. アカウントへのアクセス

手順

1. access.redhat.com に移動します。
2. アカウントがない場合は、作成します。
3. アカウントにログインします。

A.2. サブスクリプションのアクティベート

手順

1. access.redhat.com に移動します。
2. **サブスクリプション** に移動します。
3. **Activate a subscription** に移動し、16 桁のアクティベーション番号を入力します。

A.3. リリースファイルのダウンロード

.zip、.tar.gz およびその他のリリースファイルにアクセスするには、カスタマーポータルを使用してダウンロードする関連ファイルを検索します。RPM パッケージまたは Red Hat Maven リポジトリーを使用している場合は、この手順は必要ありません。

手順

1. ブラウザーを開き、access.redhat.com/downloads で Red Hat カスタマーポータルの **Product Downloads** ページにログインします。
2. **JBOSS INTEGRATION AND AUTOMATION** カテゴリーの **Red Hat AMQ** エントリーを見つけます。
3. 必要な AMQ 製品を選択します。**Software Downloads** ページが開きます。
4. コンポーネントの **Download** リンクをクリックします。

A.4. パッケージ用のシステムの登録

RPM パッケージを Red Hat Enterprise Linux にインストールするには、システムが登録されている必要があります。ダウンロードしたリリースファイルを使用している場合は、この手順は必要ありません。

手順

1. access.redhat.com に移動します。
2. **Registration Assistant** に移動します。

3. ご使用の OS バージョンを選択し、次のページに進みます。

4. システムの端末に一覧表示されたコマンドを使用して、登録を完了します。

詳細は、How to Register and Subscribe a System to the Red Hat Customer Portal を参照してください。

改訂日時：2023-01-28 12:22:30 +1000